

令和5年度 広報広聴特別委員会行政視察報告書

1 視察日

令和5年5月24日（水）、25日（木）

2 視察先及び視察事項

兵庫県西脇市役所 兵庫県西脇市下戸田128番地の1
議会報告会の開催方法や成果について
課題懇談会開催までの調整方法、対話形式について

京都府京丹後市役所 京都府京丹後市峰山町杉谷889番地
市民と議会の懇談会について
議会だよりについて

3 参加者

委員長 渡辺 友三
副委員長 田代 まさよ
委員 尾村 忠雄 田中 やすひさ 野田 勝彦 森藤 文男
蓑島 もとみ 長岡 文男 本田 教治
随員 議会事務局長 齋藤 貴代
議会事務局議会総務課 主任 荻本 恵
計11人

4 視察内容

(1) 兵庫県西脇市役所 議会報告会の開催方法や成果について
課題懇談会開催までの調整方法、対話形式について

説明者	西脇市議会広報広聴特別委員会委員長	村岡 栄紀
	西脇市議会広報広聴特別委員会副委員長	高瀬 洋
対 応	西脇市議会議長	林 晴信
	西脇市議会事務局長	山口 英之
	西脇市議会事務局 主任	春岡 香織

※ 参考 西脇市 人口 38,477人（令和5年4月30日）、面積132.44km²、議員数16人

○ 西脇市の概要、視察事項

西脇市は平成18年1月から議会だよりを発行し、視察時の令和5年5月24日時点で、第80号まで発行されている。また、「議会報告会」、「課題懇談会」、「高校生版議会報告会」、「オンライン予算広聴会」などを実施しており、市民の声を広く聴く機会を設けている。議会だよりの中で「まち

かどレポート」と称して、市内で活躍されている商店や飲食店等を紹介しており、親しみやすい議会だより作成に繋がっている。

＊説明事項

○ 議会報告会

◆ 議会と語ろう会

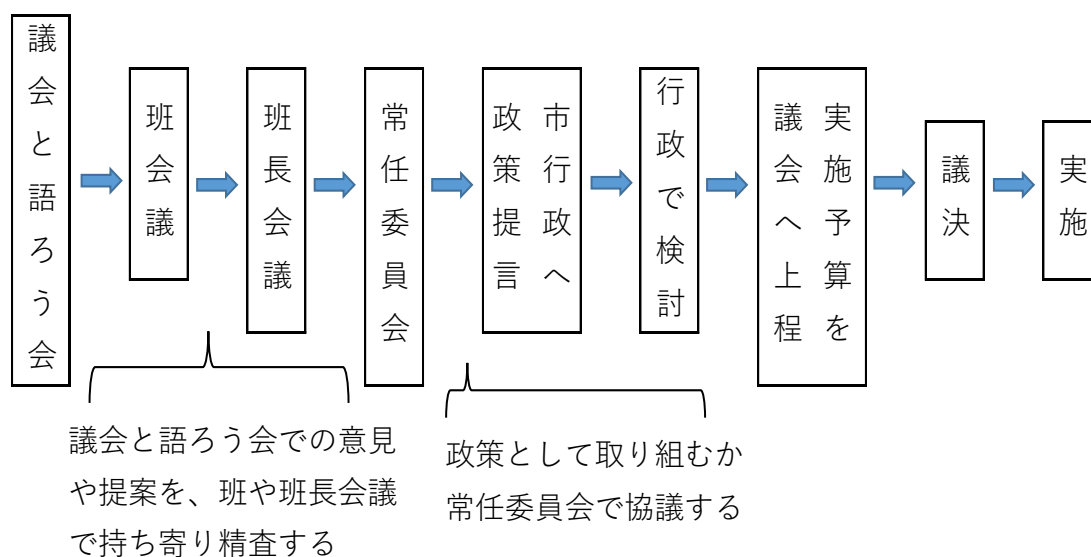
平成 22 年 5 月に第 1 回を開催し、令和 4 年 11 月までにオンラインを含めて計 20 回実施している。時期は 5 月と 11 月であり、年間 40 会場以上、19 時 30 分からの開催が多く、毎回平均 15 名程の参加である。基本的な運営方法としては、議長を除く 15 名の議員が 5 班に分かれて、各班 3 名の議員で 1 会場を担当している。全 2 部構成になっており、第 1 部は定例会の内容を議員が報告し、第 2 部は共通テ



西脇市役所における視察

マについてワークショップ方式で市民と意見交換を行っている。議員 1 名が 1 グループを担当してファシリテーターを務め、各グループで出た意見を発表することで、参加者内で意見を共有している。

【議会と語ろう会から政策提言や事業実施までの流れ】



◆ 課題懇談会

市内で活動する市民団体、市民グループと各委員会が課題やテーマを決めて意見交換を行う取り組みで、令和2年度は3つの商店会と懇談を実施した。地域住民や事業者のリアルな声を基に、様々なデータ収集と議員間での討議を重ね、市行政への政策提言により、予算へ反映されることに繋がっている。

◆ 高校生版議会報告会

平成29年から、市内3か所の高校生が西脇市の現状への関心を高め、積極的に地域活動や政治に参加してもらうきっかけとして実施している。高校生からの提案も出るが、市政に反映する要素としては弱い面もあるため、現在やり方については協議している段階である。

◆ オンライン予算広聴会

新年度事業について市民から意見を聴取して、予算審査時の参考とする取り組みである。過去2回、3月定例会期中の予算常任委員会前に実施しているが、参加者が少なく今後のやり方を検討している状況である。実績としては、定員10名程度に対して、令和3年、4年度ともに参加者は1名である。

○ 議会だより

◆ 基本概要

年に4回発行している。A4の横書き、20ページ程度の構成を基本にしており、全てフルカラーまたは二色刷りである。記事内容によっては2枚から4枚程度、ページ数に差が出る場合がある。編集作業は定例会後から開始し、定例会翌月10日前後までに原稿を完成させ、協議会にて原稿の読み合わせを行っている。その後、定例会翌月20日前後までに広報広聴特別委員会委員や議長の確認を行っている。

◆ まちかどレポート

議会だより第67号に第1回を掲載しており、広報広聴特別委員会委員が市内の商店や飲食店などを取材して紹介することで、広報誌の内容充実に繋がっている。



西脇市議会の議会だより（第79号、80号）



掲載している「まちかどレポート」

(2) 京都府京丹後市役所 市民と議会の懇談会について
議会だよりについて

説明者	京丹後市議会広報広聴特別委員会委員長	水野 孝典
	京丹後市議会広報広聴特別委員会副委員長	松本 聖司
対 応	京丹後市議会議長	谷津 伸幸
	京丹後市議会事務局長	奥垣 由美子
	京丹後市議会事務局 議会総務課長	金木 泰憲
	京丹後市議会事務局 議会総務課 課長補佐	田中 一郎

※ 参考 京丹後市 人口 51,444 人（令和5年4月30日）、面積 501.84 km²、議員数 20 人

○ 京丹後市の概要、視察事項

京丹後市は、平成16年8月から議会だよりを発行し、視察時の令和5年5月25日時点で第76号まで発行されている。議会報告会である「市民と議会の懇談会」をワールドカフェ形式で開催しており、市民の声を聴きやすい場づくりに繋げている。また、議会だよりの中で「市民の声」と称して、市民からの寄稿による市民参加企画ページも設けており、市民との繋がりを身近に感じる議会だより作成に繋がっている。

* 説明事項

○ 議会報告会

◆ 市民と議会の懇談会

平成20年の6月定例会から懇談会を対面形式で開催しているが、平成30年の6月定例会からは、少人数に分かれて各テーブルで発言するグループ形式に変更している。令和2年3月定例会から令和3年3月定例会までと、令和3年度12月定例会での懇談会は、コロナ禍により中止している。実績としては、視察時まで計53回、270会場で開催し、参加者総数は4,088名で1回あたり77名、1会場あたり平均16名の参加となっている。



京丹後市役所における視察

各懇談会で出た意見は、少人数に分かれたテーブルごとに集約してまとめるため、市民と議会の懇談会終了後、各テーブルのファシリテーター議員が報告書をまとめて班長に提出し、班長がまとめた上で班会を開き、内容について協議する。それを班の意見としてまとめたものを班長会で協議し、その後、必要に応じて常任委員会で所管事務調査を行うか、政策提言に繋げるように持って行

くかを協議する。メリットとして、比較的政策に持って行きやすいことが挙げられ、各懇談会で出た主な意見は、議会だよりに掲載して紹介している。

◆ 対面形式からワールドカフェ形式への変更経緯

平成 20 年から 30 年の間で懇談会の参加人数が減少しており、参加者アンケートからも話しにくいという声や、参加者の発言量のバランス、要望の場になっているとの声があり、女性や若年層の参加が少なかった。これに伴い、より気軽に意見を話せる場づくりとして、ワールドカフェ形式で開催したところ、参加して良かったという声が増加し、次回も参加したいという意見が 7 割を超えたため変更した。現在のワールドカフェ形式では、議員も参加者もカジュアルな服装で参加し、和やかな雰囲気になるよう音楽も流している。

○ 議会だより

◆ 基本概要

定例会ごとに年 4 回発行している。A4 で 24 ページ、1 列 10 字詰、34 行、6 段組みを基本レイアウトとしている。

編集から校了まで、正副委員長の最終確認回を含めて計 5 回の編集委員会を実施している。印刷事業者への入稿から納品までは概ね 25 日前後で、発行日は、次回定例会前月の 10 日または 25 日である。

◆ 市民の声

京丹後市は 19 年前に 6 町合併しており、各町の方から順番に投稿していただく形にしている。掲載記事は、投稿者自身が原稿を書き、写真も用意している。



京丹後市議会の議会だより（第 75 号、76 号）



掲載している「市民の声」

5 所感

○ 西脇市

西脇市の議会報告会は平成 22 年から地区単位で実施されていたが、男性の高齢者中心、自治会役員など同じ顔触れであることが顕在化し、これを解消するために平成 27 年から自治会単位での開催に変更したとのことである。現在は市内 80 自治会を 2 年に分けて一周するように、年に 2 回 40 会場で開

催しているが負担が大きく、今後の在り方として1年に20自治会、4年で一周することを検討されている。

また、各報告会で市民から出た意見は、委員会等で時間をかけて調査しており、政策提言へと繋げるサイクル形成をする上で参考になる点が多い。

課題の中で、様々な世代や団体、女性の声を聴く必要性を挙げられていたが、これらの解決策の1つとして、様々な団体へ出向いて開催の依頼をしたり、例えば子育て世代グループの1人と繋がる事ができれば、声を聴く機会を設けて、会の開催へのきっかけになると学んだ。

議会だよりは、カラー色が多く横書きであり、内容も見やすい。表紙について、元々は子どもの写真にしていたが、議会だよりモニター会を開催した際に、議会の活動内容が分かる写真を載せるべきという声があり、現在のように変更していると伺った。このように様々な視点から市民の声を聴き、目に見える形で応えている姿が、市民からの信頼を高める上で大切であると学んだ。

○ 京丹後市

京丹後市では、平成20年から議会報告会を実施しているが、現在のワールドカフェ形式は平成30年から開始しているとのことである。ワールドカフェ形式のメリットは、少人数に分かれてテーブルごとに発言するため、気軽に話しながら互いの意見の違いを理解することができることである。開催後のアンケートで「次回も参加したい」という意見が7割を超えており、こうした結果からも開催形式について参考とすべきことが多い。各報告会では議員がファシリテーターを務めており、その役割は大きい。ファシリテーターの今後のあり方についても検討する必要があると学んだ。

また、報告会での懇談テーマについて、参加者自身が自分事として考えられる方が意見は出やすく、充実した内容になるとのことで、開催時のテーマについて検討する上で大変参考になった。

議会だよりについては、郡上市と共通しているレイアウトがいくつかあるが、毎号裏表紙に「市民の声」と称して市民からの投稿記事を掲載している。投稿者自身で原稿や写真を用意するため、市民を身近に感じることができ、議会と市民の繋がりを感じられる点では参考としたい。

6 視察経費

視察費	358,740円（随員職員2名分旅費を含む）
一人平均	39,860円（委員9名）

以上、視察研修の主な結果について報告いたします。

令和5年6月30日

郡上市議会議長 田代 はつ江 様

郡上市議会広報広聴特別委員会
委員長 渡辺 友三